

植民地期慶尚北道における学校「普及」と地域

——金泉高等普通学校の設立をめぐる動きを中心に

古川 宣子

はじめに

1931年5月、慶尚北道金泉郡に中等普通教育機関である私立金泉高等普通学校（以下「金泉高普」と略）が設立された¹。高等普通学校は、朝鮮総督府の学校「普及」政策の中心に据えられた普通学校（官・公・私立）修了後に進学する学校として、5年間の中等普通教育を行い、その後高等教育機関である専門学校や京城帝国大学予科に接続する学校である²。

1935年に行われた学校設立者崔松雪の銅像除幕式には呂運享が参席し「慶北のオアシス」と祝辞を述べた学校であった。この学校は、植民地末期の1942年に校長である鄭烈模が朝鮮語学会事件に関係していたとして逮捕された後、公立化され日本人校長が赴任するなどしたが、1945年の「解放」を経て現在も地域の伝統校（金泉中・金泉高等学校）として運営されている。

金泉高普に関連する研究としては、学校設立が可能となった資金30万円余りの拠出を行った崔松雪に焦点を当てた、金鎬逸「崔松雪堂の教育理念と教育活動」・金亨陸「崔松雪堂関連資料の分析と展望」・金喜坤「崔松雪堂（1855～1939）研究」などの成果が出されている。また、崔松雪は1922年に『崔松雪集』3巻を発刊するなど、文人としても活動しており、その文学活動について現在韓国では研究書や博士論文なども出されている人物である。同女史は、金泉で1855年に生まれたが、39歳からは京城在住となり、学校設置に際して京城の住宅も含め私財をすべて寄付し、金泉にあった「別荘」に1930年から移り住み1939年に金泉で亡くなった。

本研究では、植民地期に金泉高普が設立される過程について、崔松雪の貢献の大きさもさることながら、設立前史としての、1924年に発起人会総会が開かれた「金泉高等普通学校期成会」とその母体となった金陵青年会の活動に焦点を当てて分析する。地域でどのように中等教育機関の設立運動が展開されていったのかを明らかにすることにより、植民地下朝鮮人の教育要求の所在について解明する一助としたい。なお考察に当たっては、こうした運動の前提・根拠となる、地域における初等学校「普及」状況とその定着の様相に

-
- 1 金泉高普は男女あわせた公私立高等普通学校としては朝鮮全体で41校目、私立男子のみでは10校目に設立されている。
 - 2 女子は、女子高等普通学校と称された。なお、修業年限5年制は第2次朝鮮教育令施行（1922年4月）以後であり、女子高等普通学校の場合は4年・3年に短縮することも認められていた。これ以前は、男子4年制、女子3年制であった（『朝鮮総督府官報』1911年9月1日および1922年2月6日）。
 - 3 金昌謙編『韓国育英事業の母 崔松雪堂』（景仁文化社、2008年）所収。